

# 家塵ダニアレルギー性喘息(成人)の 免疫療法

*Allergen immunotherapy for house dust mite-sensitive asthma*

中込 一之・永田 真\*

Kazuyuki Nakagome Makoto Nagata

埼玉医科大学呼吸器内科講師・教授\*  
埼玉医科大学アレルギーセンター・センター長\*

## Summary

アレルゲン免疫療法は、アレルギー疾患の自然経過を修飾し、その寛解を誘導しうる治療法である。喘息における、家塵ダニ・アレルゲン免疫療法の一般的な適応は、軽～中等症で呼吸機能が正常なアトピー型喘息である。ダニアレルゲンの関与が明確で、罹病期間は10年未満であることが望ましい。われわれの検討では、その有効率は罹病期間10年未満、1秒率70%以上の症例で高かった。また喘息の50～85%でアレルギー性鼻炎の合併がみられる。アレルゲン免疫療法はアレルギー性鼻炎ではすべての重症度における標準的ガイドライン治療であり、鼻炎合併の喘息では、特により適応と考えられる。

## Key words

アレルゲン免疫療法, 喘息, アレルギー性鼻炎, 皮下免疫療法, “one airway, one disease”

## はじめに

吸入ステロイド(inhaled corticosteroid: ICS)を中心とした薬物療法の進歩により、喘息はコントロールが良好な疾患となった。しかし近年では、ICSは喘息の自然経過を修飾しないことがわかり、対症療法に過ぎないと位置づけされつつある。一方、アレルゲン免疫療法はアレルギー疾患における免疫学的寛解を、すなわち治癒を期待できる唯一の治療法である。免疫療法は、病態の根本に存在するアレルゲン特異的Th2型免疫応答の制御を治療標的とし、疾患の自然経過を修飾する可能性を有する点で、薬物療法とは異なった意義が期待できると考えられる。

免疫療法のアレルギー治療における期待と評価は国際的には高まりつつあるが、わが国では標準化ダニアレルゲンが薬価収載されていなかったこと、本療法を施行できる施設あるいはアレルギー専門医が少ないことなどから、今までは十分に施行されてこなかった。少数の施行施設では、ダニの代わりに、実際に家から採取した室内塵(house dust: HD)を使った皮下免疫療法(subcu-